

「今週の一枚」



カンヒザクラ （バラ科）

高知市内では1月から咲き出しました。普通のサクラの花に比べて赤色が濃く（特に半開きでは）、つりがねの形をしています。名前は寒い時期に咲く緋色のサクラという意味です。ヒカンザクラ（緋寒桜）と呼ばれることもありますが、ヒガンザクラ（彼岸桜）と聞き間違いやすいので、カンヒザクラが標準になっています。中国南部、台湾、石垣島が原産地で、寒さには弱いのですが、関東地方まで栽培できます。

沖縄や奄美諸島でサクラと言えばこの種類ですが、花見の日には北から始まり南へ進むという特徴があります。ところが、高知では暖かい所から咲き出します。つぼみから花になるまでには暖かさが必要なのは同じですが、冬の知らせとなる寒さがこないと春の支度ができないためです。花の芽は前年の夏にできて、すぐ休眠してしまうため、目覚めさせる寒さが必要になります。暖かい地方では、春の暖かさは十分なので違いが少なく、早く冬になった所ほど、花が早く咲くのです。この現象はソメイヨシノでも見られます。地球温暖化が進むと、「桜前線が南下してきました」という報道になるかも知れません。（埴田）

（No.36 2002.2.4 掲載）